

橋本 順

Hashimoto Jun

(東海大学医学部専門診療学系画像診断学)



1964年に生まれたものは、①私(3月)、②東海道新幹線(10月)、③日本核医学会(11月)です。奇しくも11月に創立60周年を迎える日本核医学会の学術総会を同月7~9日に主催させていただくことになりました。会長も60歳、学会も60歳です。

総会の全体テーマは“築く・繋ぐ・核医学 Nuclear Medicine – Creation and Communication –”です。いろいろな領域の方々が互いに手を取りながら核医学を通じて新しい知見を築いていくという意味で、横浜の街をつなぐエアキャビンをモチーフにしたポスターを作成しました。核医学の新しい風を感じていただけるような総会になるように準備に尽力しております。

合同特別講演は、日本放送協会放送技術研究所の方をお願いしました。日頃より我々は画像を扱い、そのクオリティを追求していますが、同様に画像による表現を追求する放送技術の最先端について、画像のみではなく、音声その他も含めて包括的にお話しいたします。

2024年の核医学のトピックは何と言ってもアミロイドPETです。これまでアルツハイマー型認知症の根本的な治療がないという理由で、何度申請しても保険収載が見送られてきたアミロイドPETですが、関係者の切なる願いでもあった保険診療がついに実現し、その後で最初に開催される核医学会総会となります。同じ会場で、半日通しで教育講演的なセッションを企画し、これらを聴講すると“アミロイドPETの今が分かる”といった内容を目指しております。

同様に現在の核医学の大きなトピックである核医学治療についても焦点を当てました。核医学治療の分野では近年、疾患に関する特異的な新しい放射性医薬品が相次いで開発され、適応となる疾患が拡大しています。治療用の病室の準備等、他の核医学の領域にはない特別な作法も存在します。アミロイドPETと同様に、同じ会場で、半日通しでセッションを企画し、これらを聴講すると“核医学治療の今が分かる”といった内容とすることを目指しています。

脳、腫瘍と共に核医学の3大領域となっているのが心臓です。心臓核医学と関連する講演は最終日(11月9日)に集中させました。午前にはこれまでになかった試みとして、日本核医学会、日本核医学技術学会、日本放射線腫瘍学会、日本心臓核医学会、日本不整脈心電学会による国内5学会合同のジョイントセッションを企画しました。内容は重症不整脈に対する放射線治療についてです。本邦発の不整脈の新規治療法であると共に、放射線治療の新しい利用法でもあり、また治療計画に核医学画像を使用するため、心臓核医学検査の新しい適用とも言え、前記5学会のジョイントセッションとさせていただきます。関係諸学会のご協力に改めて感謝申し上げます。

このセッションの後に、日本核医学会創立60周年記念講演を企画しました。現職の学会理事長の絹谷清剛先生と共に、ゲスト演者としてHeartseed社の福田恵一CEOをお迎えします。福田先生は慶應大学教授を退官された後に医療ベンチャーのCEOとして、iPS細胞から作成した心筋球を用いた心不全治療の研究をされています。注目されるこの研究の話題と共に、アカデミアから医療ベンチャーに移られた背景や研究の苦労話等についてもお話しいたします。

学会創立60周年の区切りのときに、核医学や学会の将来に思いを馳せ、横浜に集まって熱く語り合いたいと思います。すがすがしい秋に、美しい港町横浜でお目にかかるのを楽しみにしております。